

株 主 メ モ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	毎年6月		
基準日	定時株主総会の議決権	3月31日	
	期末配当	3月31日	
	中間配当	9月30日	
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部		
証券コード	8692		
単元株式数	100株		
公告方法	電子公告により行います。 http://www.daiko-sb.co.jp/koukoku/index01.html ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。		
株主名簿管理人／ 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		
上記お問合せ先／ 郵便物送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711（通話料無料） 受付時間 9：00～17：00（土・日・祝日、12月31日～1月3日を除く）		

- 〈株式に関する各種お手続き〉
- 届出住所などの変更、配当金の振込先の指定、単元未満株式の買取請求および買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、上記口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にて承りますのでお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社だいこう証券ビジネス

〒135-0052 東京都江東区潮見二丁目9番15号
電話 (03)5665－3040(代表)

<http://www.daiko-sb.co.jp>

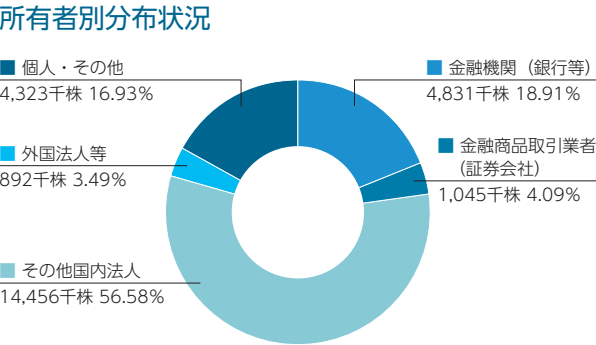
株 式 の 状 況

(2014年9月30日現在)

株式の状況	
発行可能株式総数	66,240,000株
発行済株式総数	25,549,900株
株主数	5,205名

大株主の状況

会社名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社野村総合研究所	13,013	50.93
野村ホールディングス株式会社	1,070	4.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	721	2.82
株式会社りそな銀行	699	2.73
株式会社三井住友銀行	699	2.73
株式会社三菱東京UFJ銀行	690	2.70
株式会社池田泉州銀行	572	2.24
株式会社みずほ銀行	565	2.21
藍澤證券株式会社	489	1.91
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	400	1.56



クオリティ・ソーシング



第59期 中間報告書

2014年4月1日～2014年9月30日

株式会社だいこう証券ビジネス

証券コード：8692



新生 DSBグループ

—さらなる飛躍に向けて—

2014年10月1日より、当社およびグループ会社は「新生DSBグループ」として新たなスタートを切りました。現在、2014年度を初年度とした3か年からの中期経営計画の下、今後の業容拡大への備えと経営効率の向上を図るため、グループ一丸となって諸施策に取り組むことで、さらなる飛躍へとつなげてまいります。

1 TOPIC コーポレートロゴを一新、コーポレートスローガンを制定

クオリティ・ソーシング



DSBグループの新たなスタートとともに、今後の企業ブランドイメージと企業価値向上を目指し、当社およびグループ会社におけるコーポレートロゴを一新し、コーポレートスローガンを制定いたしました。これらをグループ全体で統一的に展開することで、DSBグループブランドのプレゼンス向上を目指してまいります。

コーポレートロゴ

大文字による端正な書体は、DSBグループの目指す「**高品質なサービス、高度な専門性、高い信頼**」を表しています。

また、重なり合う「S」のフォルムは、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様との「**つながり**」を意味し、DSBグループがつながる全ての方々と価値を共創し、喜びを共有し、発展していくという願いが込められています。

コーポレートカラーのDSBブルーは、「**知性**」と「**誠実**」を、中央のDSBゴールドは、「**輝く未来**」、そして「**お客様と共創する価値（実り）**」を表しています。

コーポレートスローガン

「クオリティ・ソーシング」とは、幅広い業務分野において**高度な専門性**を発揮し、**高品質なサービス**を提供することで、お客様の**経営資源の最適化**を実現する総合的なソリューションです。

DSBグループは、クオリティ・ソーシングを通じてお客様と共に新たな価値創造を目指します。

2 TOPIC 日本クリアリングサービスを吸収合併

当社の連結子会社であった日本クリアリングサービス株式会社（以下、「NCS」）は、1998年8月に設立され、株式会社野村総合研究所の共同利用型証券バックオフィスシステム「STAR-IV」を利用する証券会社向けに証券事務企画、監査支援、証券決済等の特色のあるバックオフィスサービスを提供してまいりました。

この度、当社は、当社およびNCSがそれぞれ培ってきた経営資源の集中と効率化を図り、証券会社向けバックオフィス事業の収益力と競争力を一層強化していくため、10月1日付でNCSを吸収合併いたしました。引き続き、DSBグループにおける証券会社向けバックオフィス事業の統合を推進し、さらなる効率化を目指してまいります。

3 TOPIC 当社およびグループ会社の拠点を移転・集約

これまで東京都内に分散していた当社およびグループ会社である株式会社ジャパン・ビジネス・サービス、株式会社DSB情報システム（旧ケーシーエス株式会社）の各拠点を東京都江東区潮見へ集約、10月1日より、全面的に新オフィスでの業務を開始しました。これまで以上に、グループ一体としての総合力を発揮してまいります。



4 TOPIC 英文商号の変更

DSBグループのブランド力強化のための施策の一環として、これまで使用してきた略称を英文商号とします。コーポレートロゴの英字表記と英文商号の連動により、企業としてのブランドイメージを浸透させ、社名のより一層の認知度向上を目指します。

DSB Co., Ltd.



新生 DSBグループとして、総合力を発揮し、次なるステージへの飛躍を目指します。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第59期上半期（2014年4月1日から2014年9月30日まで）の事業の概況について、ご報告申し上げます。

代表取締役社長

多田 斎

当上半期におけるわが国経済は、政府の経済対策や日本銀行の金融緩和等による景気の下支えにより、消費税率引き上げの影響はあるものの、引き続き緩やかな回復基調にありました。

このような状況の下、当社グループは次なる成長ステージへ向けて、中長期的に目指すべき目標として、「グループ経営ビジョン」を掲げ、2014年度から2016年度の3か年を対象とした新たな中期経営計画をスタートし、「証券業務のトータルソリューションの提供」と「会社運営の効率化ソリューションの提供」の二つの分野において、諸施策を展開しております。

主な取り組みといたしましては、株式会社野村総合研究所との資本業務提携契約に基づき、本年4月1日付で当社は同社の子会社となり、同社との合併会社であった日本クリアリングサービス株式会社を本年10月1日付で当社に吸収合併いたしました。

また、今後の業容拡大に備えるとともに、経営効率の向上を図るため、本年8月から9月にかけて当社およびグループ会社の東京オフィス移転・集約を行い、本年10月1日より新生DSBグループとして新たな出発をいたしました。これに合わせ、当社およびグループ会社におけるコーポレートロゴを一新するとともに、コーポレートスローガン『クオリティ・ソーシング』を制定いたしました（P.1-P.2をご参照ください）。これらをグループ全体で統一的に展開していくことで、DSBグループブランドのプレゼンス向上とグループシナジーの発揮を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年12月

営業収益

営業収益は、本年1月のNISA（少額投資非課税制度）開始以降、口座開設等の業務量が落ち着きを見せたこと等により、前年同期比20.4%減少の112億45百万円となりました。

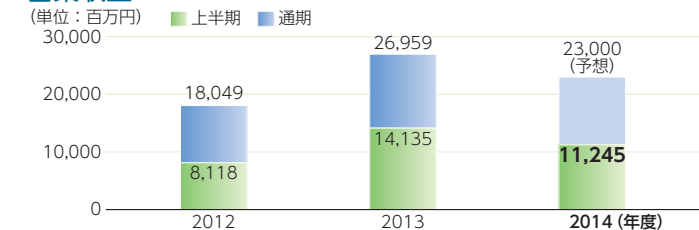
営業利益

営業利益は、前年同期比86.4%減少の1億83百万円となりました。

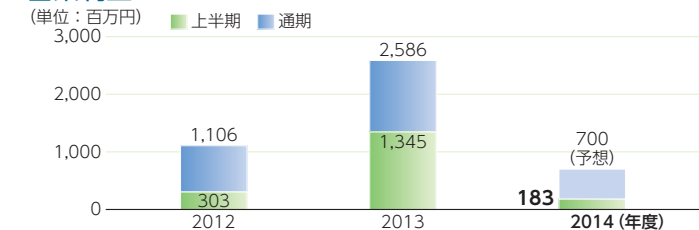
四半期（当期）純利益

四半期（当期）純利益は、移転に伴う固定資産売却益を特別利益に、事務所移転損失を特別損失に計上したこと等により、前年同期比68.9%減少の2億89百万円となりました。

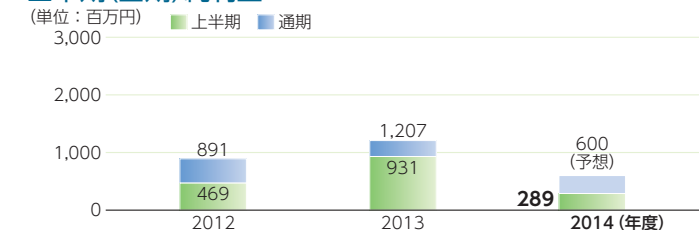
営業収益



営業利益



四半期(当期)純利益



グループ経営ビジョン

私たちは、高度な専門性を駆使した
先見的トータルアウトソーシングサービスの提供により、
価値共創を実現する企業グループを目指します。

証券業務のトータルソリューションの提供

～業界標準のプラットフォームとして、証券業界全体の発展に貢献します～

会社運営の効率化ソリューションの提供

～会社運営のコスト削減をサポートすることで、企業の効率運営に貢献します～



バックオフィス事業

証券会社設立支援コンサルティング

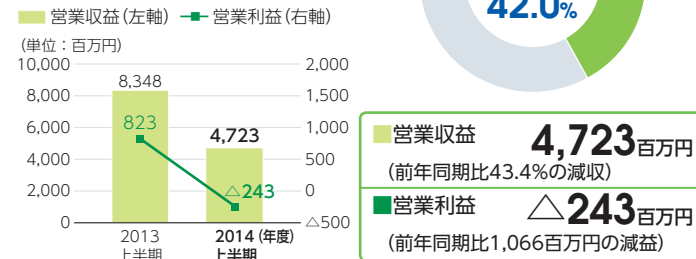
- 証券会社設立に伴う登録申請などの当局対応
- 業務運営に係るスキーム構築など

証券事務

- 口座開設、証券決済
- 相続手続き事務代行サービス
- 電子文書管理サービス(D-FINDS) など

保管／配送／メーリング

- 有価証券、重要書類などの現物保管・配送
- 重要書類の印刷・封入・封緘・圧着処理など



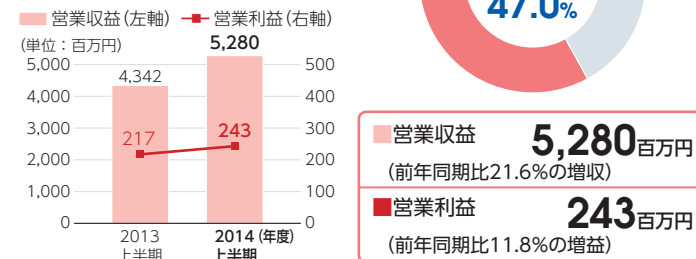
制度開始に向けて前期急増したNISA（少額投資非課税制度）関連業務が一服したことにより、口座開設業務やメーリング業務等が前期を下回りました。これらの結果、営業収益は前年同期比43.4%減少の47億23百万円、セグメント損失（営業損失）は2億43百万円（前年同期はセグメント利益（営業利益）8億23百万円）となりました。



ITサービス事業

証券関連システムの開発、提供、運用、保守

証券バックオフィスシステムの提供および業務サポート等が堅調に推移したことにより、営業収益は前年同期比21.6%増加の52億80百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期比11.8%増加の2億43百万円となりました。



証券事業

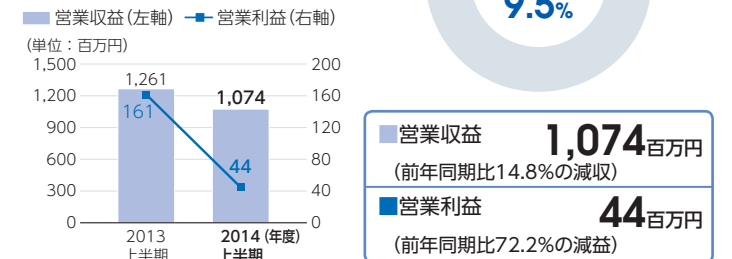
市場執行

清算取次

口座管理サービス

- 株式等間接口座管理サービス(CLS)
- 投信・一般債口座管理サービス
- 担保有価証券管理サービス
- 商品先物充用有価証券管理サービス

商品供給サービス



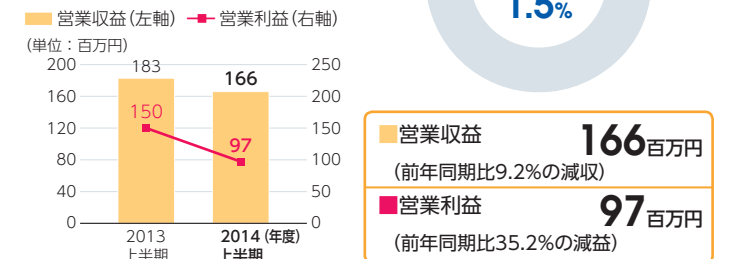
前期に比べて株式市況が低調に推移したことにより顧客証券会社からの委託手数料等が減少いたしました。これらの結果、営業収益は前年同期比14.8%減少の10億74百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期比72.2%減少の44百万円となりました。



金融事業

証券担保ローン

証券担保ローンの融資残高が減少したこと等により、営業収益は前年同期比9.2%減少の1億66百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期比35.2%減少の97百万円となりました。



■ 四半期連結貸借対照表

科 目	前年度末 (2014年3月31日)	当第2四半期末 (2014年9月30日)
(資 産 の 部)		
流動資産	42,854	49,530
現金及び預金	8,095	9,798
預託金	806	806
営業貸付金	12,301	11,806
信用取引資産	11,800	16,049
たな卸資産	22	40
営業未収入金	2,253	2,363
有価証券	202	202
短期差入保証金	7,038	7,943
その他	399	605
貸倒引当金	△ 65	△ 87
固定資産	12,135	11,431
有形固定資産	1,393	1,086
無形固定資産	6,407	7,426
ソフトウェア	6,210	7,205
その他	196	221
投資その他の資産	4,333	2,918
投資有価証券	2,562	1,211
その他	2,004	1,762
貸倒引当金	△ 233	△ 55
①▶資産合計	54,990	60,962

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

POINT

① 資産合計

主に営業貸付金が減少し、現金及び預金、信用取引資産、短期差入保証金が増加したことにより、前年度末に比べ59億72百万円増加しております。

② 負債合計

主に信用取引負債、短期受入保証金が増加したことにより、前年度末に比べ72億20百万円増加しております。

③ 純資産合計

主に日本クリアリングサービス株式会社の完全子会社化に伴う少数株主持分の減少により、前年度末に比べ12億47百万円減少しております。

(単位：百万円)

科 目	前年度末 (2014年3月31日)	当第2四半期末 (2014年9月30日)
(負 債 の 部)		
流動負債	26,234	33,663
短期借入金	10,218	10,680
1年内返済予定の長期借入金	333	333
信用取引負債	4,845	10,570
短期受入保証金	7,921	8,401
その他	2,915	3,678
固定負債	2,389	2,057
長期借入金	666	500
退職給付に係る負債	1,245	1,244
その他	477	312
特別法上の準備金	407	530
金融商品取引責任準備金	407	530
②▶負債合計	29,031	36,251
(純 資 産 の 部)		
株主資本	24,528	24,286
資本金	8,903	8,906
資本剰余金	11,727	11,367
利益剰余金	3,952	4,066
自己株式	△ 54	△ 54
その他の包括利益累計額	558	370
その他有価証券評価差額金	597	408
土地再評価差額金	△ 0	△ 0
退職給付に係る調整累計額	△ 39	△ 38
新株予約権	32	54
少数株主持分	838	－
③▶純資産合計	25,958	24,710
負債純資産合計	54,990	60,962

■ 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 (2013年4月1日～ 2013年9月30日)	当第2四半期 (2014年4月1日～ 2014年9月30日)
④▶営業収益	14,135	11,245
営業費用	9,190	7,615
営業総利益	4,945	3,629
一般管理費	3,600	3,446
④▶営業利益	1,345	183
営業外収益	81	77
営業外費用	0	0
経常利益	1,427	260
⑤▶特別利益	109	434
⑥▶特別損失	244	303
税金等調整前四半期純利益	1,292	392
法人税、住民税及び事業税	231	89
法人税等調整額	57	12
少数株主損益調整前四半期純利益	1,004	289
少数株主利益	72	－
四半期純利益	931	289

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 (2013年4月1日～ 2013年9月30日)	当第2四半期 (2014年4月1日～ 2014年9月30日)
⑦▶営業活動によるキャッシュ・フロー	313	2,516
⑧▶投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 36	287
⑨▶財務活動によるキャッシュ・フロー	2,187	△ 1,101
現金及び現金同等物の増減額	2,464	1,703
現金及び現金同等物の期首残高	4,829	8,298
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,294	10,001

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

POINT

④ 営業収益・営業利益

2014年1月のNISA開始以降、口座開設等の業務量が落ち着きを見せたこと等により、営業収益は、前年同期に比べ20.4%減の112億45百万円、営業利益は、前年同期に比べ86.4%減の1億83百万円となりました。

⑤ 特別利益

主に固定資産売却益2億45百万円であります。

⑥ 特別損失

主に事務所移転損失1億64百万円であります。

POINT

⑦ 営業活動によるキャッシュ・フロー

主に営業貸付金の減少額4億95百万円、信用取引資産の増加額42億49百万円、信用取引負債の増加額57億25百万円、短期受入保証金の増加額4億62百万円によるものであります。

⑧ 投資活動によるキャッシュ・フロー

主に有形固定資産の売却による収入14億5百万円、無形固定資産の取得による支出21億33百万円、投資有価証券の売却による収入11億26百万円によるものであります。

⑨ 財務活動によるキャッシュ・フロー

主に子会社の自己株式の取得による支出12億円によるものであります。

会社概要

社名	株式会社だいこう証券ビジネス
英文社名	DSB Co., Ltd.
設立	1957年5月
資本金	89億6百万円
本社所在地	〒135-0052 東京都江東区潮見二丁目9番15号 電話 (03)5665-3040(代表)
事業所	本社 大阪本部
子会社	株式会社ジャパン・ビジネス・サービス 株式会社DSB情報システム

役員

代表取締役会長	山本晃
取締役副会長	石橋慶一
代表取締役社長	多田斎
専務取締役	風神浩三
専務取締役	御園生悦夫
取締役常務執行役員	成神克雄
取締役	渋谷伸
取締役	山崎仁志
取締役(社外)	秦喜秋
監査役(常勤)	岩崎均
監査役(社外)	石川孝憲
監査役(社外)	忠内幹昌
監査役(社外)	田口和夫

ホームページのご案内

当社ホームページでは、サービス案内をはじめ最新の企業情報等を提供しております。ぜひご利用ください。

(トップページ)



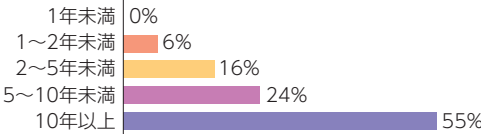
(株主・投資家情報)



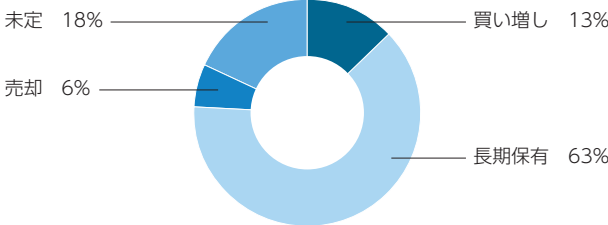
<http://www.daiko-sb.co.jp>

第58期年次報告書にて実施しましたアンケートに対し、126名の株主の皆様からご回答をいただきました。心より御礼申し上げます。ここではアンケート結果の一部をご報告いたします。

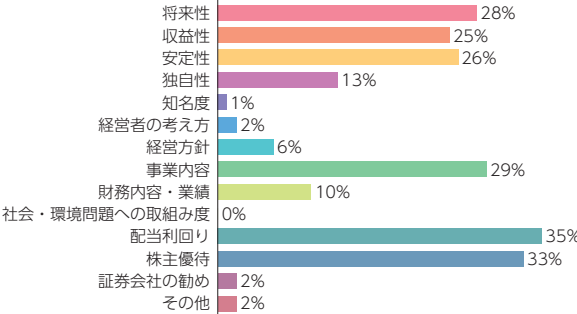
Q あなたは株式投資を始めて、どのくらいになりますか。



Q 当社の株式に対する保有方針を教えてください。



Q 当社の株式を購入された理由を教えてください。(複数回答可)



株主の皆様からの声を紹介します。

- ポイントを押さえた簡明な株主通信だったと思います。株価対策の検討をお願いいたします。
- オフィス移転、おめでとうございます。より一層の発展を願っています。

株主の皆様からのご意見・ご要望は、株主施策やIR活動の参考とさせていただきます。

今後も皆様とのコミュニケーションの一環として、アンケートを行ってまいりますので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

配当について

●2014年度の間配当

- 普通株式 1 株につき
- 配当金総額
- 配当効力発生日

7円50銭
191百万円
2014年12月8日

なお、期末配当金は1株につき、7円50銭を予定しております。